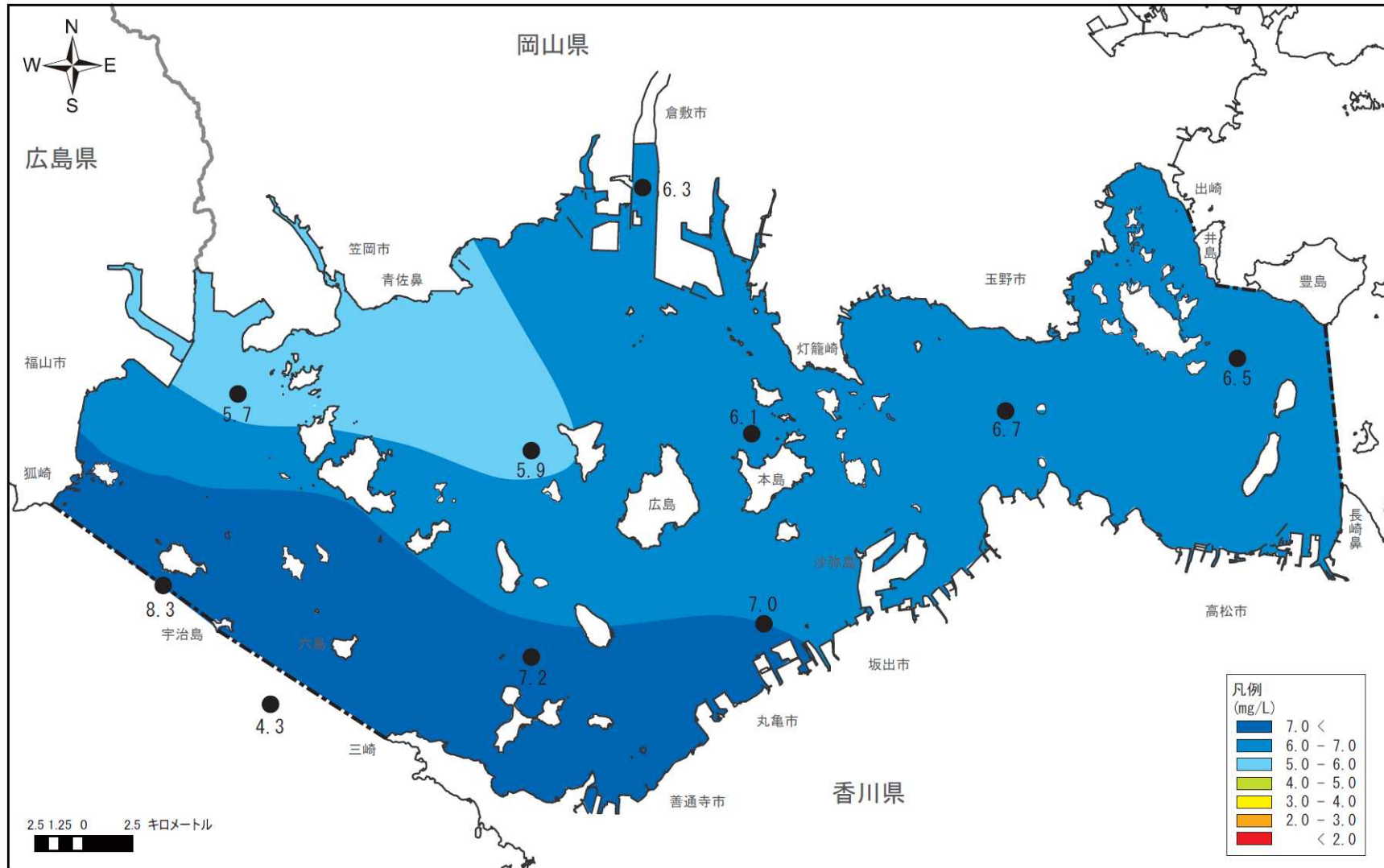


図 2.7 主な浅場



注1) 平成19~23年の夏季下層DOのうち、DO濃度分布が最も悪化した平成20年を掲載した。

注2) 測定位置：海底直上1m 出典：環境省広域総合水質調査結果

図2.8 夏季下層DOの分布状況(平成20年)

表 2.4 主要魚介類の選定結果

瀬戸内海における主な魚介類		周年定住種	備讃瀬戸における漁獲量上位種	保護水面对象種	産卵場、生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	選定結果	選定理由
魚類	イカナゴ			保護水面あり（対象種：藻場・水産動植物）			
	コノシロ						
	マコガレイ					生育場が干潟に依存する。	
	イシガレイ					生育場が干潟に依存する。	
	メイタガレイ						
	ヒラメ					生育場が干潟に依存する。	
	タマガンゾウヒラメ						
	イヌノシタ						
	クロダイ						
	マダイ						生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ						
	イボダイ						
	スズキ						生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス						
	イサキ						
	シイラ						
	ニベ						
	シログチ						
	ペラ						
	カサゴ						
	メバル						
	アイナメ						
	トカゲエソ						
	マエソ						
	サウラ						
	マナガツオ						
	カタクチイワシ（シラス）						
	タチウオ						
	マサバ						
	マアジ						
	マルアジ						
	ブリ						
マイワシ							
ハモ							
マアナゴ							
ウナギ							
ボラ							
カワハギ							
トラフグ							
シロザメ							
アカエイ							
イカ・タコ類	マダコ						
	イイダコ						
	テナガダコ						
	コウイカ						
エビ・カニ類	スルメイカ						
	ガザミ					生育場が干潟に依存する。	
	シャコ						
	クルマエビ					生育場が干潟に依存する。	
貝類	アカエビ						
	キシエビ						
	ヨシエビ						
	アサリ						
	アカガイ						
	サルボウ						
	タイラギ						
	トリガイ						
	バカガイ						
	ハマグリ						
マテガイ							
サザエ							
棘皮類	マナモコ						

主な魚介類：以下の文献により抽出した。  
 「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら，1996）」  
 「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編，1997）」  
 「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編，1985）」  
 周年定住種：以下の文献を参考に判断した。  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（（財）海洋生物研究所，1991）  
 新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克，1998）  
 水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会，1985）  
 水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会，1986）  
 水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会，1981）  
 水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会，1983）  
 漁獲量上位種：の魚種のうち、「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。  
 保護水面对象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。  
 産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種  
 魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。  
 選定結果： - 全ての項目に該当する魚介類。

表 2.5(1) 主要魚介類(7種)の生態特性

■:分布域  
 □:分布域(水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)													
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラモ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他		
スズキ	分離浮性卵	表層	岩礁域(外海水の影響を受ける水深50-80m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(沿岸域)(仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底性生活				稚魚期(体長12~60mmまで)								河川域:稚魚期(体長12~60mmまで)		
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
マコガレイ	付着沈性卵	表層	沿岸域(水深10-50mの砂泥・砂礫・岩礁)	海底塊状粘着	浮遊生活(変態期まで)(水深10m前後)	底性生活(30m以浅)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
イシガレイ	分離浮性卵	表層	内湾(水深30m以浅の泥質域)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行(仔魚期変態期以降)	底性生活(10m以浅の浅所)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
ヒラメ	分離浮性卵	表層	沿岸域(水深20-50mの砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(変態期まで)(表層~中層20mに多く分布)	底性生活(10m以浅)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		

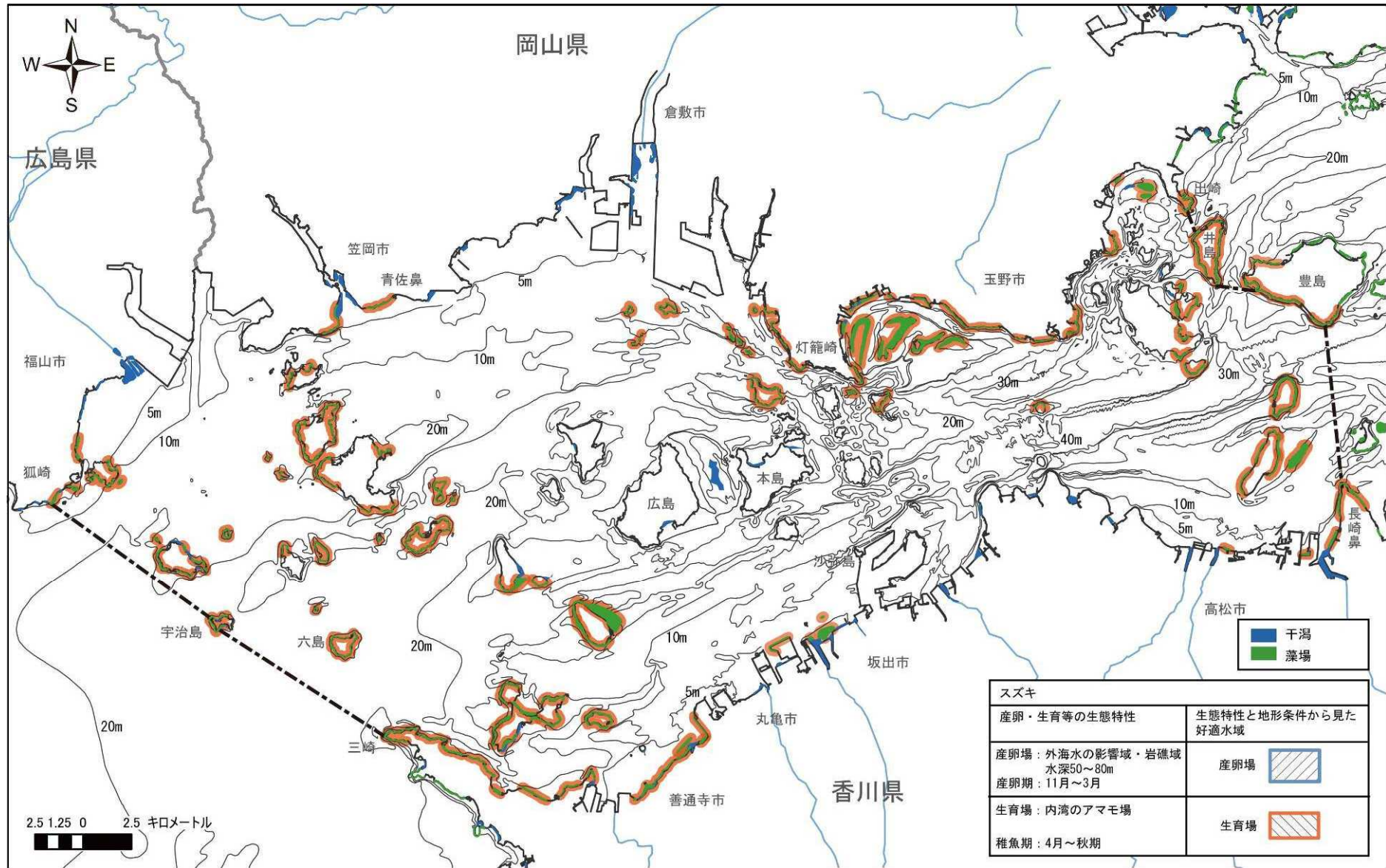
出典:沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編)((財)海洋生物研究所,1991)  
 新版魚類学(下)改訂版(渚合明・田中克,1998)  
 水産生物の生活史と生態((社)日本水産資源保護協会,1985)  
 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集整理(平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書:水産庁,2006)

表 2.5(2) 主要魚介類(7種)の生態特性

■:分布域  
 □:分布域(水深情報不足)

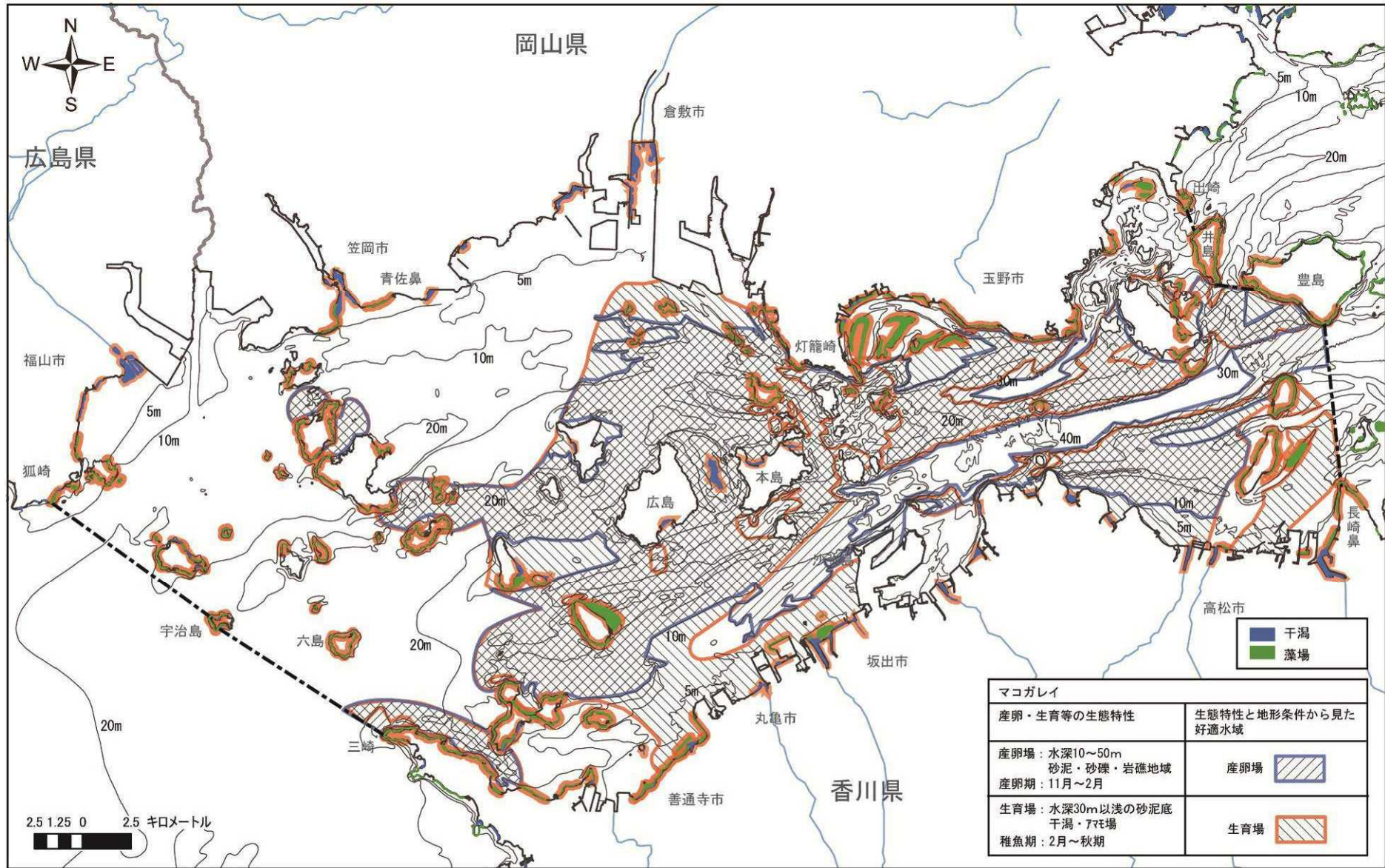
主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)													
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他		
マダイ	分離浮性卵	表層	岩礁域(水深30~100m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(仔魚後期:水深10m前後)	底性生活(水深20m以浅)			稚魚(水深20m以浅)	稚魚(水深20m以浅)										
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				
クルマエビ	浮性卵	表層	水深10m以深の沖合域					干潟(25m以浅)	砂泥域(25m以浅)											
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				
ガザミ	浮性卵	表層	砂泥域(10m以浅)					砂泥域(10m以浅)	砂泥域(10m以浅)											
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				

出典:沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編) ((財)海洋生物研究所,1991)  
 新版魚類学(下)改訂版 (落合明・田中克,1998)  
 水産生物の生活史と生態 ((社)日本水産資源保護協会,1985)  
 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書:水産庁,2006)



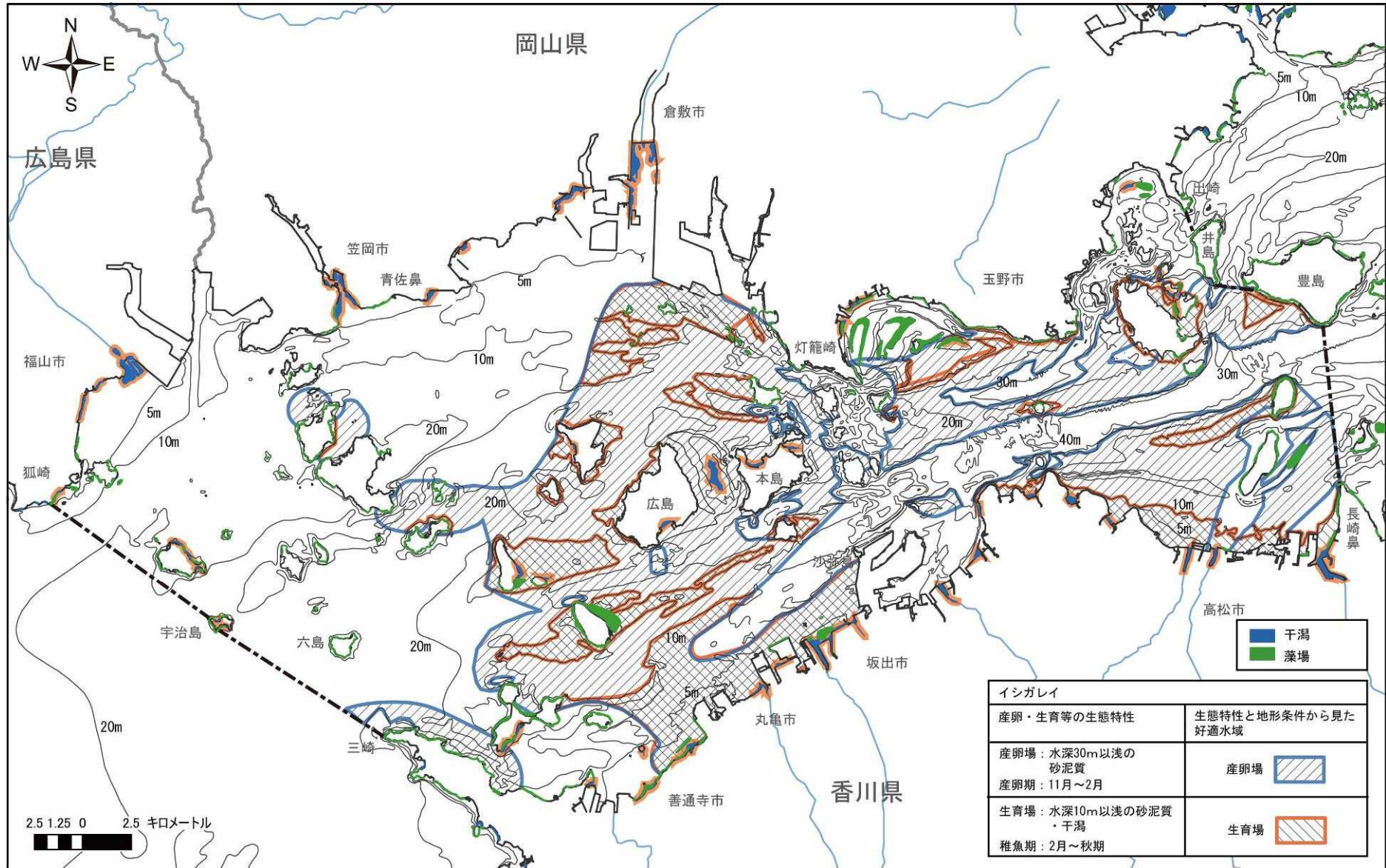
注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

図 2.9(1) スズキの生態特性・海域の地理条件・水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)



注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

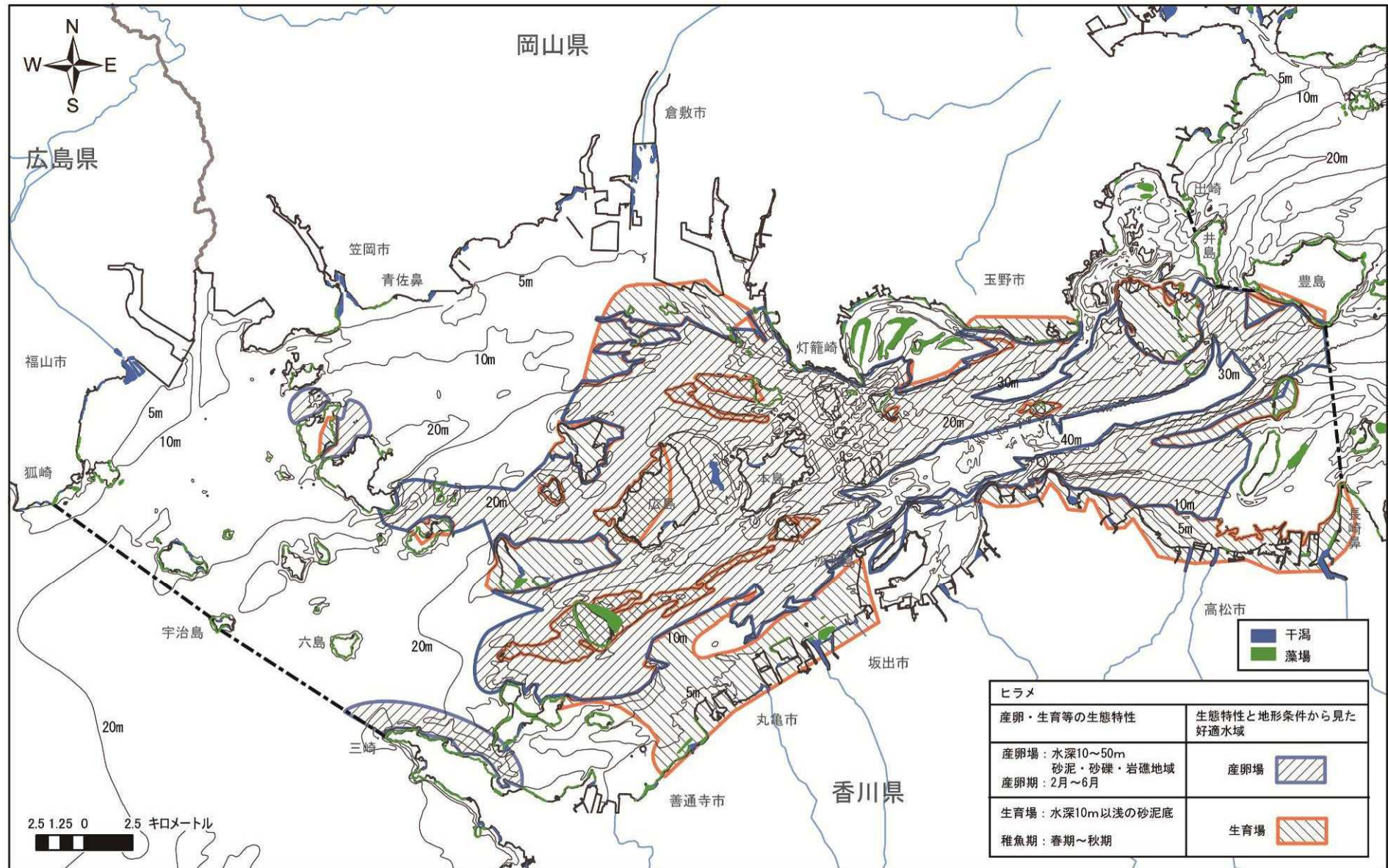
図 2.9(2) マコガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)



注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

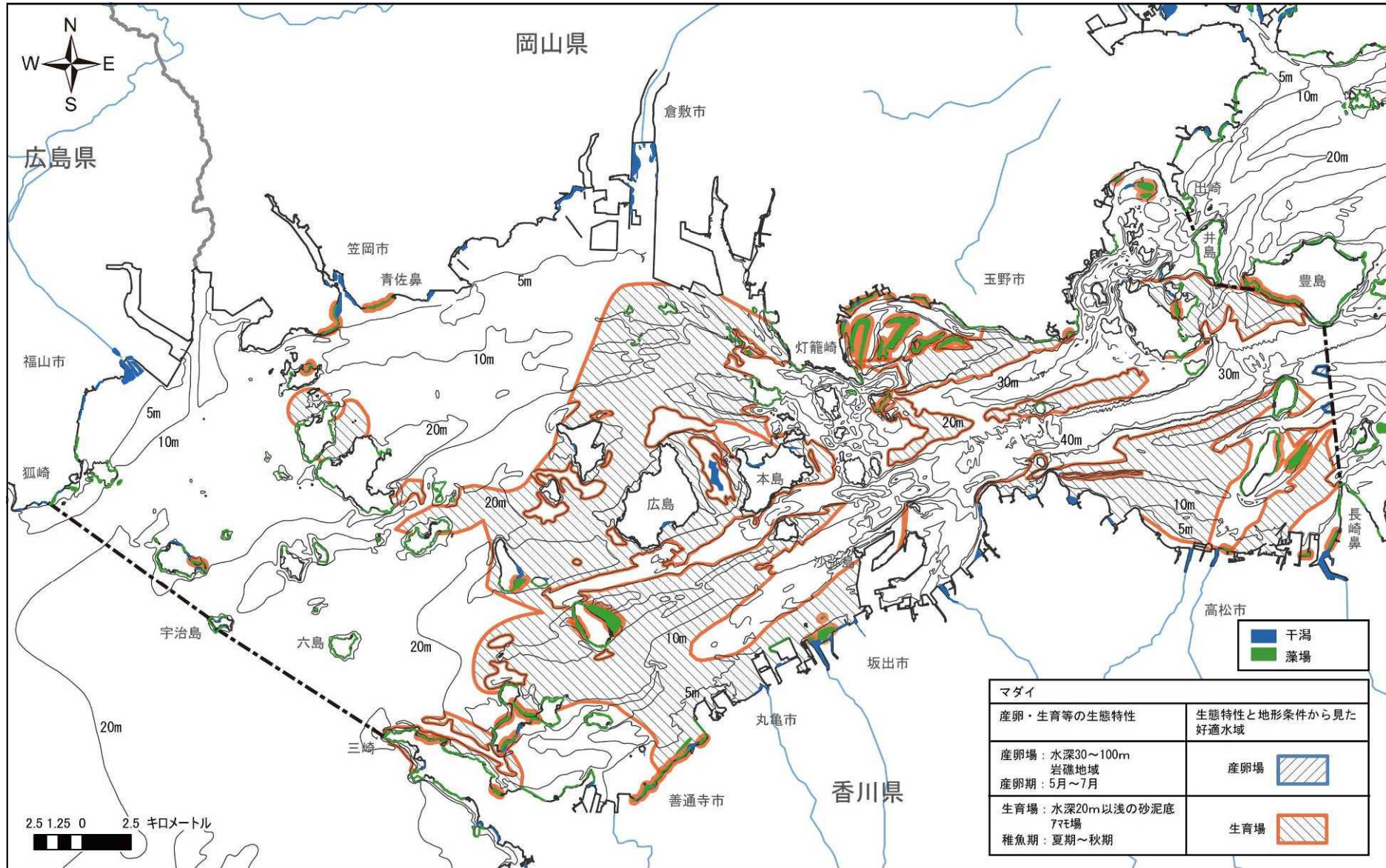
図 2.9(3) イシガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)





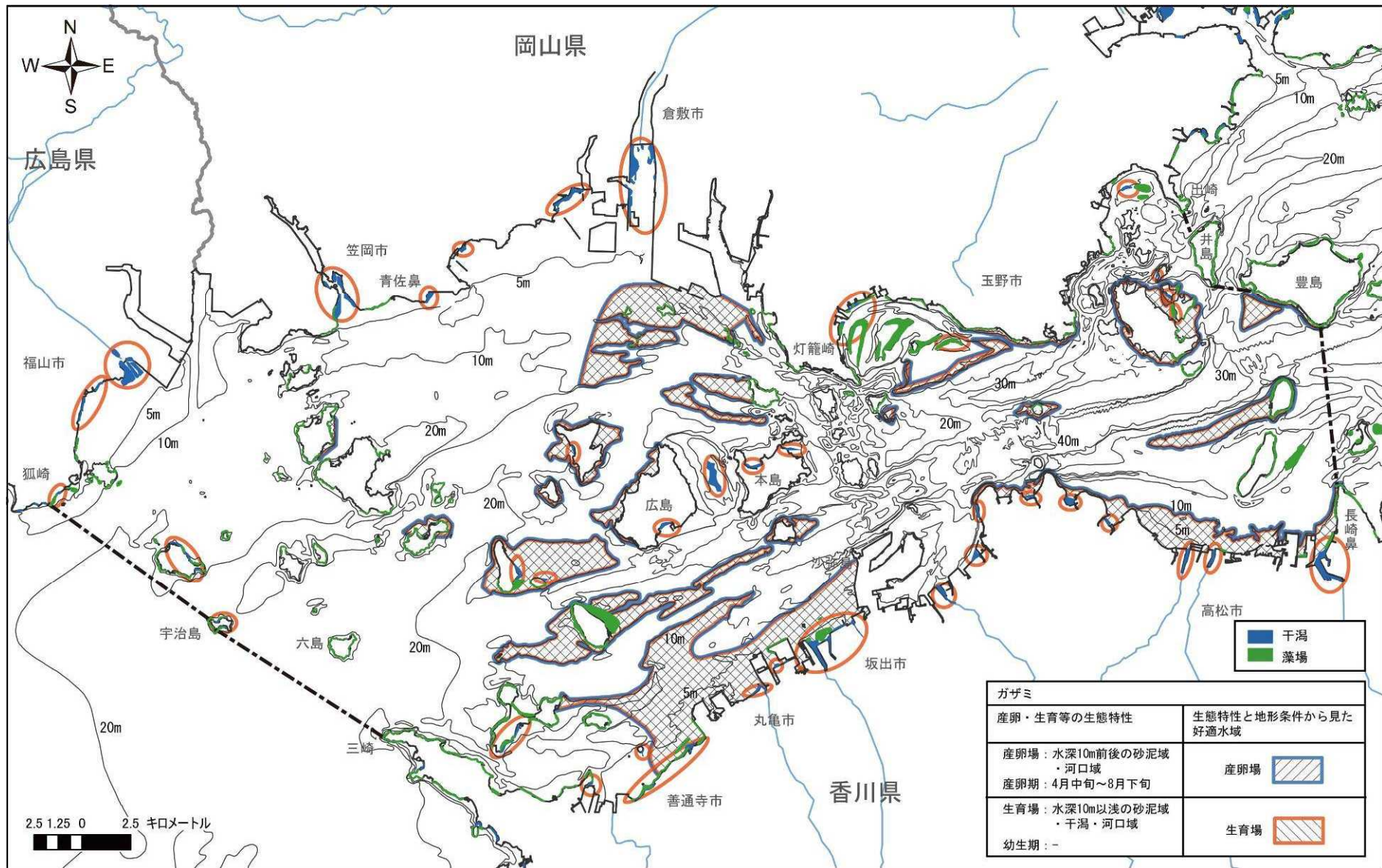
注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

図 2.9(4) ヒラメの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)



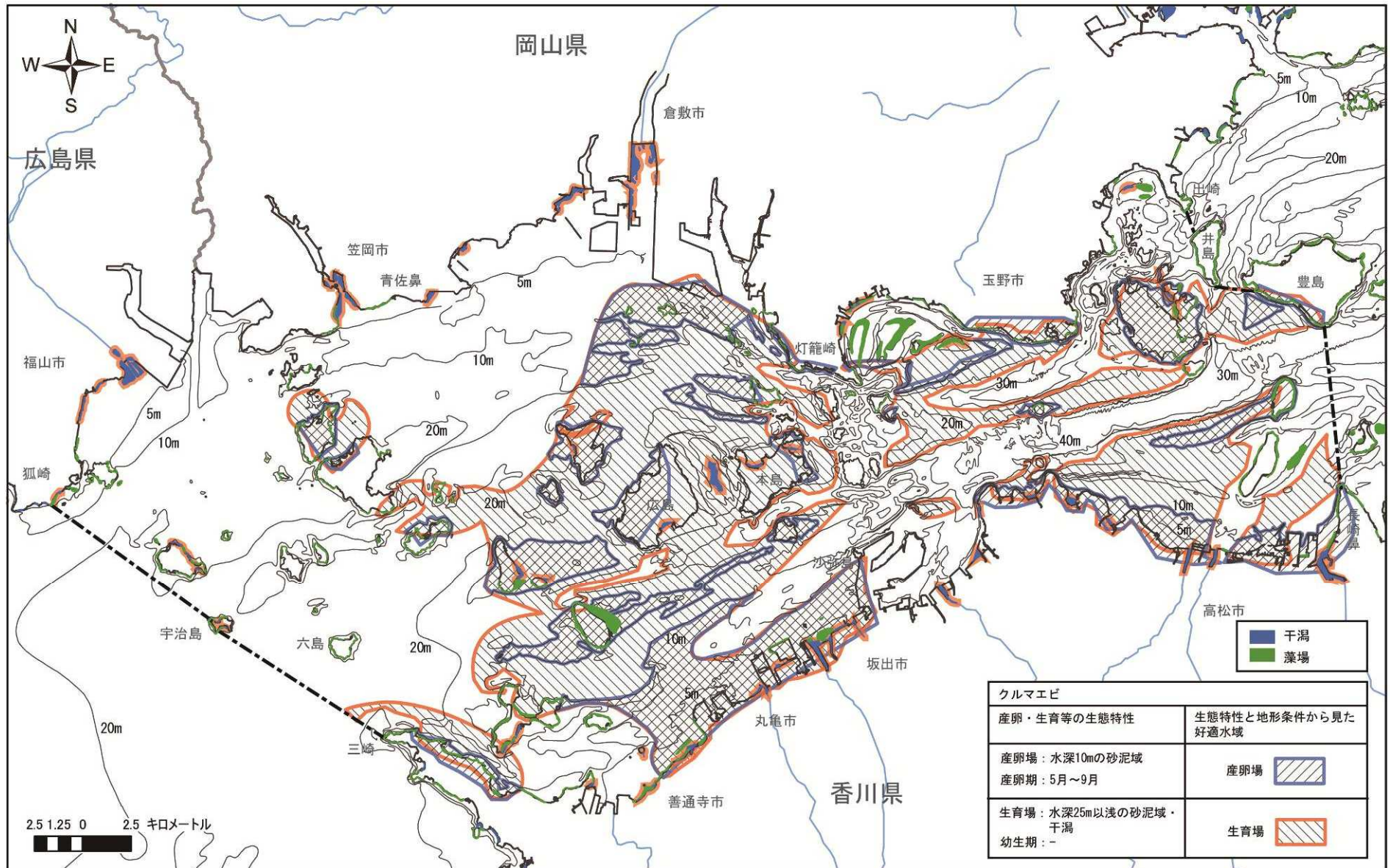
注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

図 2.9(5) マダイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た最適な水域(産卵場・生育場)



注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

図 2.9(6) ガザミの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)

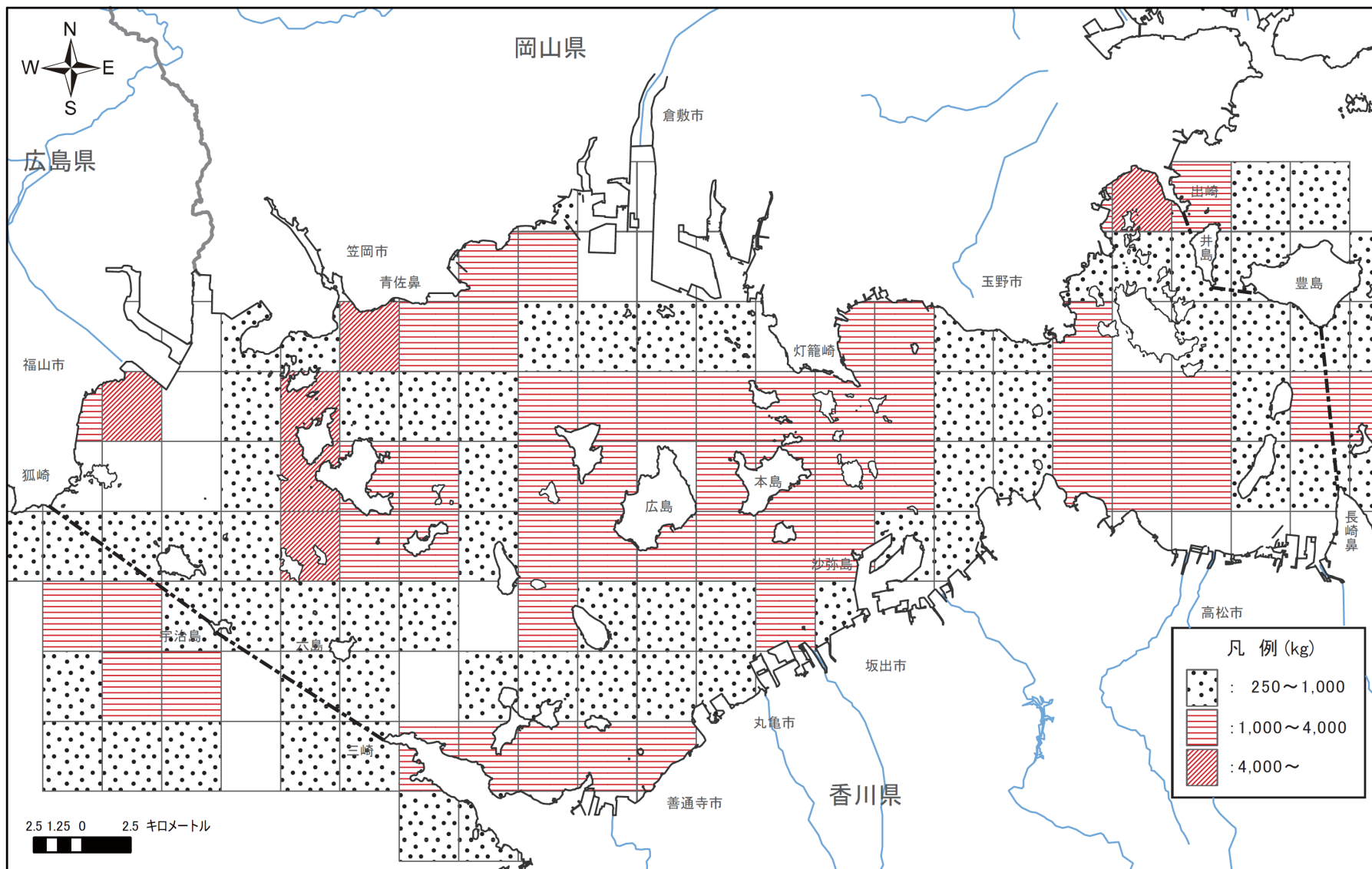


注) 底質環境については、「瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響」(平成14年3月)から作成した底質の分布状況図による推定

図 2.9(7) クルマエビの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域(産卵場・生育場)

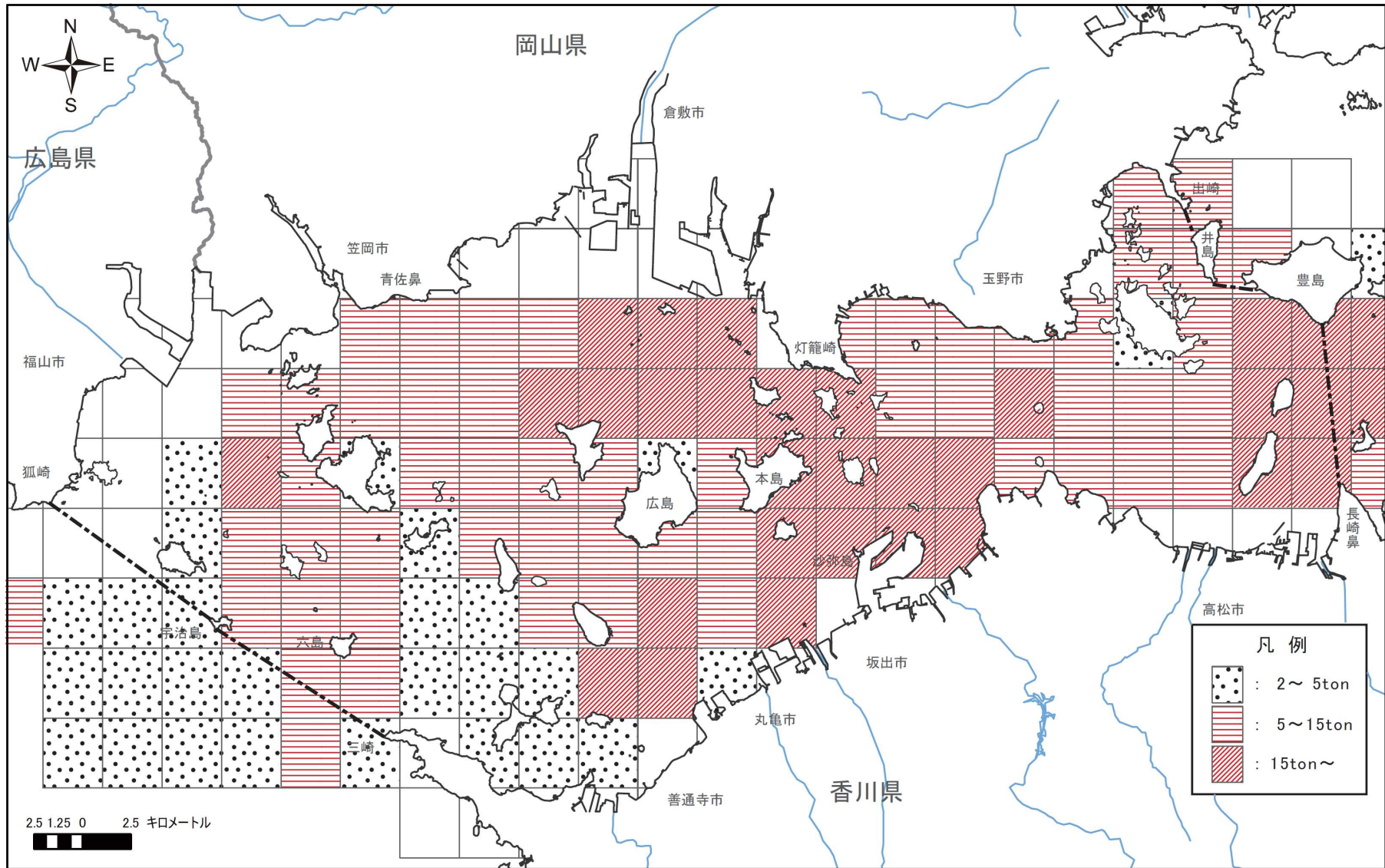
表 2.6 主要魚介類 7 種の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況

魚種	産卵場として利用されていると考えられる干潟・藻場等
スズキ	北西部の干潟（水落周辺・芦田川河口）・藻場（北木島周辺）、北東部の藻場（直島周辺）
カレイ類（イシガレイ、マコガレイ）	北西部・南西部・北東部・南東部の浅場、南西部の干潟（園の州周辺・土器川口周辺）・藻場（坂出市沿岸）、南東部の藻場（女木島周辺）
ヒラメ	北西部・南西部・北東部・南東部の浅場、南東部の藻場（女木島周辺）
マダイ	濃密な漁場は確認できない。
ガザミ	北西部・南西部の浅場、北西部の干潟（水落周辺・芦田川河口）・藻場（北木島周辺）、南東部の藻場（女木島周辺）
クルマエビ	北西部・南西部の浅場、北西部の干潟（芦田川河口）・藻場（北木島周辺）、南東部の藻場（女木島周辺）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）